

【特集】  
尊徳の心を伝える



二宮尊徳プロジェクト



にしおか かずあき  
西岡 一明 代表(左)

今こそ実践の時、  
報徳の教えで地域経済に  
活力を

日光商工会議所と市内小規模事業者などが協力して組織しています。「道徳を忘れた経済は罪悪であり、経済を忘れた道徳は寝言である」という尊徳の精神があります。そこで、尊徳が主導した各地の財政再建策や報徳仕法に倣い、まちおこしを行おうと、地域の課題解決に向けた取り組みを実施しています。

現在取り組んでいる事業として、報徳二宮社の参道と周辺のにぎわい創出、宇都宮短期大学附属高校調理科の協力を得て、地域の素材を使用したパウンドケーキの開発などを行っています。今後は参道の空き店舗を活用し、尊徳ショップを作り、にぎわいの創出と収益の地域還元を行いたいと考えています。



開発中のパウンドケーキ

日光尊徳きらり



さいとう かっし  
藤原 勝義 代表(右)

尊徳を学び、  
尊徳を尊敬し、  
尊徳の教えを広く伝えたい

平成28年度に市が主催する「日光学・わがまちきらり発見隊」の活動の中で、二宮尊徳を学びました。学ぶ中で、尊徳の偉業に感動し、その活動や教えを広めようと、29年7月に「日光尊徳きらり」を発足しました。メンバー8名で月1回程度で勉強会を行っています。尊徳の「生涯」教え「残したものの」の歴

史的観点から3つの「金次郎すごろく」を作成しました。このすごろくを使い、尊徳の偉業を多くの人に伝えるため、商業施設などですごろく大会を開催しています。また、11月に開催された「全国報徳サミット日光市大会」でも、学習発表を行いました。今後、尊徳を知ってもらおうきっかけになるよ



子どもから大人まで楽しめる「金次郎すごろく」

う、機会を設けていきたいと思えます。

報徳の教え⑤「**分度**」…収入に応じた生活の基準(分度)を定め、その分度の範囲内で生活するという、自分の立場をわきまえ、それに応じた生活をするのが大切だということ。



そして、新しい世代に受け継がれる尊徳の心

# 今市高等学校 二宮堀クリーン大作戦



今市高等学校の外周を囲む堀。和泉・平ヶ崎・千本木三か村用水、通称「二宮堀」は、今から約160年前に尊徳の指導のもと作られた用水路です。この二宮堀の清掃を今市高等学校の1年生約200名が行いました。

「二宮堀。現在はコンクリートで舗装されていますが、尊徳の日光仕法で大谷川から水をひくため作られた、現在も使用されている農業用水路です。クリーン大作戦は今年で8年目。「二宮堀の歴史・役割を理解し、清掃活動をとおして郷土への理解を深めること」、「自然愛護の精神や地域社会への奉仕精神を養うこと」を目的に行われています。

この二宮堀での作業の前に、生徒は尊徳について事前学習を行っています。尊徳の行ってきた事業や思想などを学ぶことで、より二宮堀の意味やその担ってきた役割について理解することが目的です。

清掃活動を行っている生徒たちは、くるぶし程まで水につかり「冷たい！」と言いつつも仲間と協力して積極的にごみをさらっていました。生徒たちはみな、作業中は真剣に取り組んでいる姿がとても印象的でした。

## 高校生の声

160年も前にこの堀を作った二宮尊徳は、本当にスゴイ人だと感じました。清掃は大変でしたが、綺麗になった堀を見て、とても達成感がありました。また、清掃中に近所の方が声をかけてくれたことがうれしく、地域に貢献している感じがして、やりがいもありました。



二宮堀がキレイだと  
ほくもうれしい  
そん!!



報徳の教え⑥「推譲」…生活の中で余った分は蓄えたり(自譲)、社会のために譲ったり(他譲)すること。推譲の善を積むことで、平和と幸福がもたらされる。